

みんなの健康ラジオ

『胃がん内視鏡検診の現状と今後の動向』

(2026年7月30日放送)

横浜消化器内視鏡医会

(医)相和会みなとみらいメディカルスクエア

石川 廣記

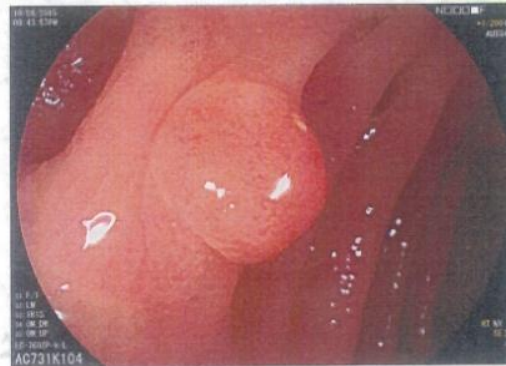
多彩な画像強調観察モード

色素（インジゴカルミン等）, NBI, LCI, BLI、レーザー光など使用

BLI 

BLI は、各種観察モードの中で最も短波長比率を増やしたモードです。
短波長成分の光で、表層の血管・構造を高コントラストに画像化します。

Case 1



白色光／拡大



BLI モード／拡大

Case 2



白色光

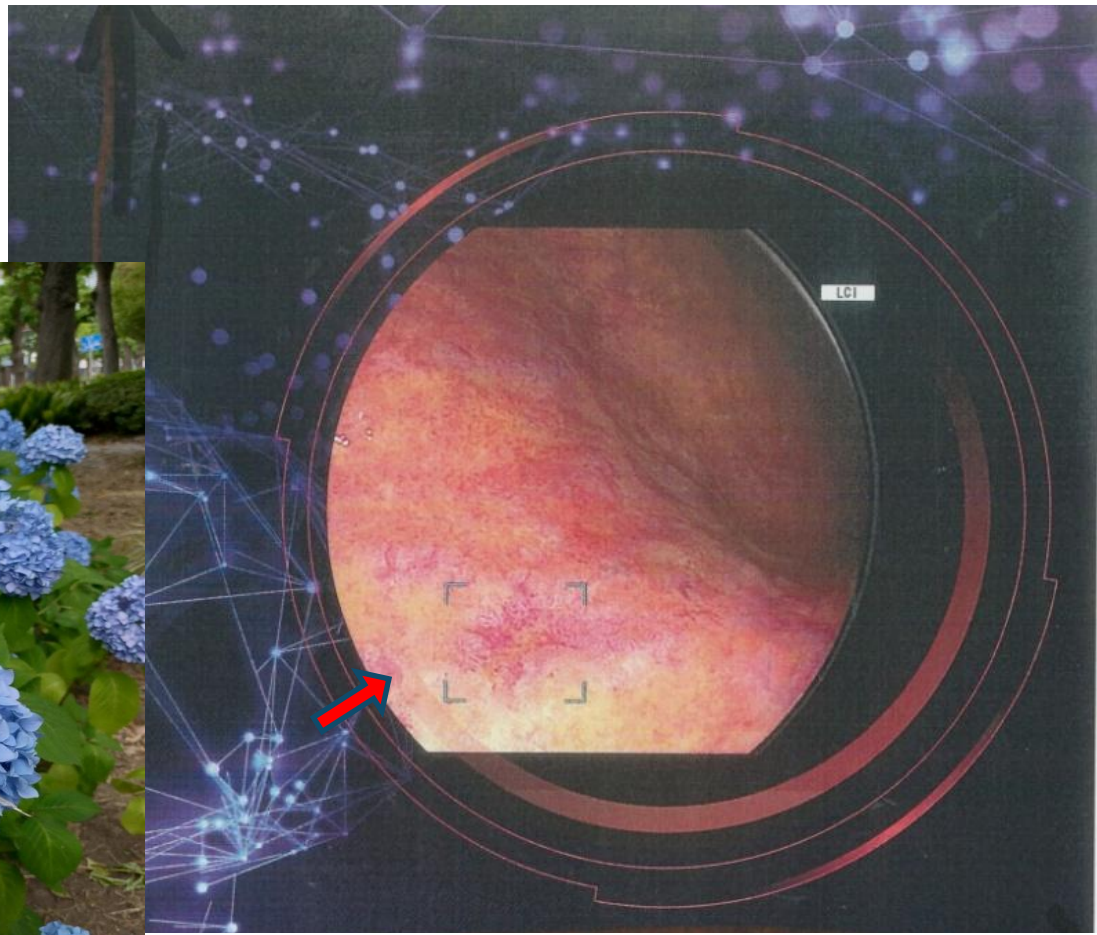


BLI モード

内視鏡画像診断支援システム

AIが見つめる内視鏡検査の未来

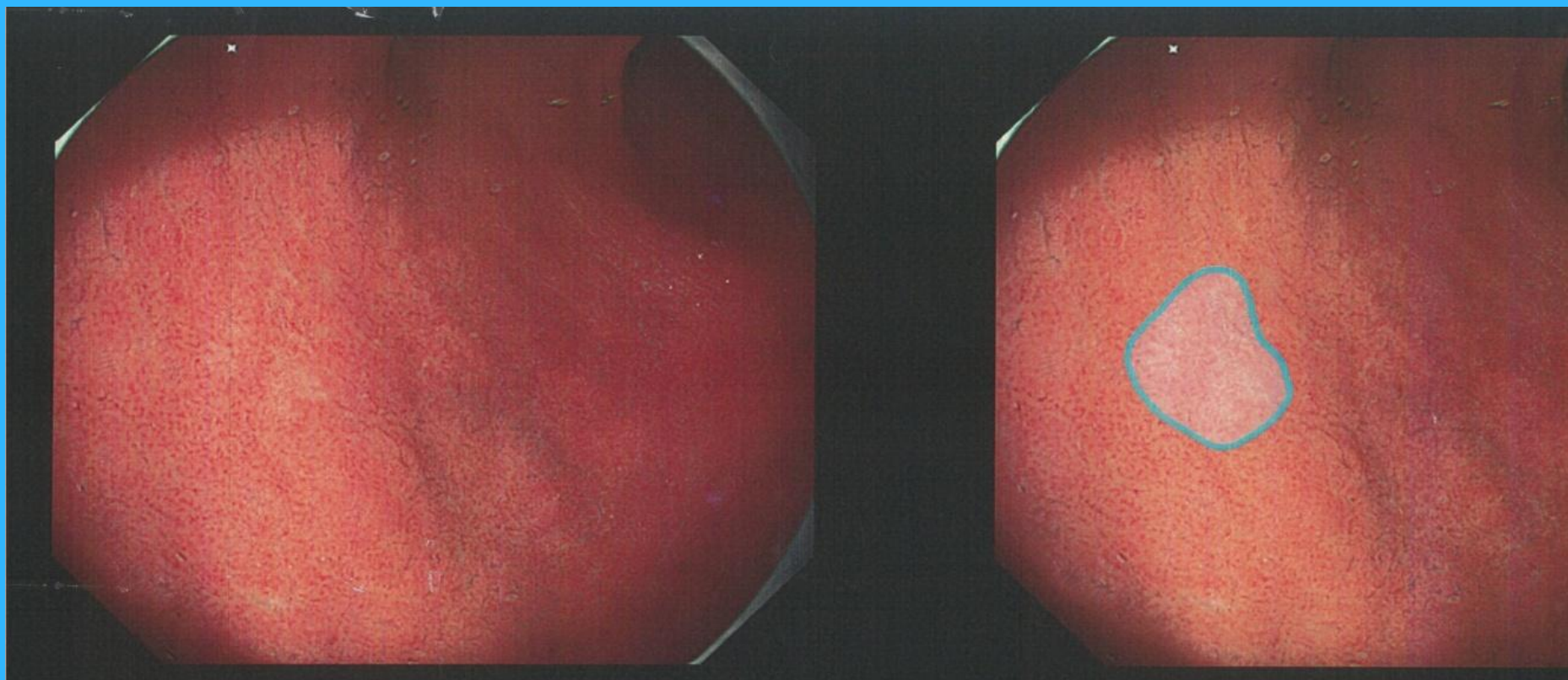
山下公園の紫陽花



AIによる内視鏡診断補助

「病変検出支援」機能で、がんやポリープなどの異常な部分を見つけて医師に知らせる機能です。内視鏡の映像を瞬時に解析し、正常とは異なる色の部分を検出すると、画面上でその箇所を囲んで表示したり、音で知らせたりします。(一)





AIによる内視鏡診断補助

AIによる内視鏡診断の性能

早期胃癌の範囲診断もAIは感度が高く、
専門医の診断にほぼ迫る精度

”現在もAIは進化中”

AIによる内視鏡診断補助

診断見落としを防ぐ
人手不足を補う

タイパ、コスパに優れる
ダブルチェック機能を果たす？

横浜市の皆さん

- ピロリ菌感染や萎縮性胃炎では圧倒的に胃がん発生率が高いので、今後は個別リスク（ピロリ菌感染の有無、胃の萎縮・炎症の程度）に応じた適切な検診間隔・方法が推奨されることになるかと予想されます。
- 胃だけでなく食道・十二指腸の疾患も、ピロリ菌感染の有無、胃の炎症・萎縮の程度もわかりますので、胃内視鏡検査を積極的に受けてくださればと思います。



ご清聴有難うございました。